

小郡市地域おこし協力隊
による活動報告コラム。

小郡農業活性化

小郡で育てて

小郡で食べる



日々の活動を
配信中!

小郡市地域おこし協力隊

市産の農作物を、
多くの消費者へ



諸岡佳紀

1984年、佐賀県生まれ。京都の大学を卒業後、金融業界、新聞社で10年間勤務。小郡市に住む友人の影響で、まちの魅力を身近に感じ、地域おこし協力隊に興味を抱く。35歳の節目に一念発起で応募。



復旧したハウス
を見せてくれた
木村朋也さん

豪雨災害を乗り越えたイチゴが最盛期を迎えました

地域おこし協力隊になってからちょうど半年。振り返れば着任した直後、豪雨災害を目の当たりにし、自然相手の仕事である農家さんの前向きに頑張る姿に心打れました。

「ハウスの屋根にまで迫る水位で、すべての苗が雨水に浸かる様子を見て、絶望的な気分だった」。寺福童の圃場でイチゴ農家を営む木村博佳さんと息子の朋也さん親子は、ハウスの損壊や、関連設備の不具合、雨水に浸かった苗など、経済的に多大な被害に遭いました。殺菌・消毒に何日も作業を費やし、その労働力を考えると、今年の出荷しても採算が厳しいと肩を落とします。

ただ、気持ちは前を向いていました。今年のイチゴは2度の災害に屈せず出荷にこぎ着けた農産品として、地元の人に手にしてもらうことは、少なからず意味があるのではないかと。地産地消のきっかけにもなるかもしれない。「小郡市で農家を続けることが最大の喜び」と話していた木村さんは、イチゴを通じて、郷土愛を育むきっかけになれたらと期待しています。損壊したハウスを見つめながら、意を決したように「緊張って農業を続けていく」と話した朋也さん、熱い言葉に勇気をもらいました。

イチゴは、今が最盛期。苦い経験をした今年のイチゴは格別に甘く感じるのではないのでしょうか。



Ogostagram

地域おこし協力隊の日々の活動記録。



若手農家と幼稚園児が餅つきを通して交流。熱々の餅を頬張る、子どもたちのキュートな笑顔が印象的でした。



いつもJA直売所「めぐみの里」で買い物をしています。新鮮な農産品がたくさんあるうえ、店員さんの笑顔もステキ!



稲穂の里みはら館では、地元産の「ローリエ」を販売しています。シチューやポトフなどに役立つハーブです。



小郡の偉人・高松凌雲の生誕祭へ。その功績に心引かれ、歴史小説「夜明けの雷鳴」(吉村昭・著)を読むほど。



佐賀県鹿島市の寺院で開催されたイベントで、小郡産米粉を材料にしたシフォンケーキが振る舞われました。



市内在住の米粉アレンジコーディネーター井手さんが指導する、米粉マフィンの教室へ。今回はクリスマスツリー風に。